

特集：2005年度日本数学会出版賞受賞者のことば

岡部恒治氏，戸瀬信之氏，西村和雄氏

日本数学会第1回出版賞に、『分数ができない大学生』を選んでいただきまして，誠に有難うございます。編著者を代表してお礼申し上げますと共に，一言挨拶させていただきます。

『分数ができない大学生』を企画したのは，1998年のことですが，大きな困難が2つありました。当時は，「ゆとり教育」が全盛でありまして，マスコミも一芸入試を肯定的に取り上げ，文部省も，大学側に学力テストの削減を要請し，個性化入試をすすめているときでした。「入学試験科目数を増やせ」ということは，「時代錯誤」と呼ばれ，「学力低下」などと言うと，教授会も「何ということをして・・・」という雰囲気でした。冗談ですが，「逮捕」も覚悟で学力低下を指摘しなければいけない状況だったのです。

先ず，本に書いてくれる人を見つけることが難しかったのです。ずいぶん多くの人に断られました。次に，出版してくれる出版社を探すのが大変でした。1年くらい経って，『分数ができない大学生』が有名になってから，学力問題について本を書いて下さいと言ってきた出版社からも，その頃は，天に唾するような時代錯誤の本を出すことはできないと，ことごとく断られました。唯一，東洋経済新報社だけが引き受けてくれたのです。出版編集部の村瀬さんと高井さんは，恐らく，社内の反対を押し切って，この本の企画を通してくださったのだと思います。

『分数ができない大学生』は，ベストセラーにはならなかったし，誰かが大儲けしたわけでもありませんが，社会に十分なインパクトを与えた本だと思います。そして，これこそ，私達が目的としたことですが，日本の教育政策を変えることに貢献したと思っています。

今や，日本の若者の学力は小学生から大学院生まで低下しています。どうやって，これを是正してゆくかは，そのこと自体が難問であり，みなさま，数学者の方々の力を必要としている問題でもあります。この受賞が，正しい教育改革の始まりとなることを願いつつ，受賞のご挨拶とさせていただきます。どうも有り難うございました。

受賞者を代表して，西村和雄（京都大学経済研究所）